

整理番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課・連絡先
1	公共施設再配置について 〔横須賀・吉田〕	<p>昨年6月に開催された説明会に参加しての所感を述べます。 公共施設を再配置しなければならない理由については、よく理解できましたが、最大の課題は「再配置後はどうなるのか」であります。説明会では、①コミュニティ公園体育館・管理棟、②吉良野外趣味活動施設・体育館、③吉良町公民館を解体し、多目的生涯学習施設を新設することが示され、その設置場所（候補地）としてコミュニティ公園、吉良中学校、吉良支所の3か所が挙げられました。また、他県の例として中学校内に新施設を設置したスライドを見せられました。説明会当初から「吉良中学校内に新設すると言わんばかり」の感触を持ちました。</p> <p><b>【意見1・質問】</b> なぜ、新設場所をこの3か所に限定するのでしょうか。公共施設再配置のテーマは「新たなまちづくりの出発点」であります。コミュニティ公園や吉良支所では「単なる建て替え」に過ぎません。吉良中学校では利用者の駐車場すらありません。吉良中学校の体育祭等でも学校周辺の道路に駐車しなければならず、通行の妨げになっている状態です。この候補地では、とても「新たなまちづくり」とは言えません。吉田地区・横須賀地区の市民が不便なく利用できる場所を用地買収し、駐車場も完備させて、スポーツから会議まで利用できる多用途の複合施設を新設すべきです。財源は、今回の再配置計画で解体する建物の敷地等を民間へ売却するなど方法はあると考えます。 市長の意見をお伺いします。</p> <p><b>【意見2】</b> 施設の建設場所は、現吉良支所が適切と思います。 理由は次のとおりです。 1 長年に渡り吉良町の中心として機能してきた。 2 公共施設再配置事業により取り壊し予定となっている。 3 吉田地内の野外趣味活動施設が廃止される。</p>	<p>はじめにご質問ご意見にお答えする前に、西尾市が公共施設再配置する5つの理由である「少子化・超高齢化」「施設の高齢化」「合併に伴う重複施設」「市民の大きな期待」「厳しい財政状況」についてご理解をいただいていることに対しまして、感謝申し上げます。誠にありがとうございます。</p> <p>なお、市民説明会で放映しました映像で中学校の複合施設を図書館の複合施設とあわせてご紹介しました目的は、吉良中学校に新設場所を限定していることではなく、あくまで複合的な公共施設の事例をご覧いただきたかったためでございます。</p> <p><b>【意見1・質問】</b> 公共施設再配置は、基本的に市が所有する土地の中で、質の高い公共サービスを市民の皆様へ提供することを前提としています。このため、新施設の立地場所は、市が所有する3つの土地を候補地としました。 また、新施設は、体育館と公民館の多目的な複合施設としているため「単なる建て替え」とはなりません。新施設の建設場所は、3候補地の中で、吉良地区の新たな市民交流の場として、どこがふさわしいかという視点から、民間事業者の企画提案を受けて検討してまいります。 なお、駐車場については、ご指摘のとおり大きな課題ではありますが、それに対応した上で、民間事業者が企画提案してくることとなります。 また、解体する建物の敷地の売却益を財源に、用地を新たに買収する方法は、跡地が希望価格で売却できるという担保がありません。さらに、こうしたリスクを増加させることは、公共施設再配置の基本理念から外れてしまうことになるため、ご理解をいただきたいと思っております。</p> <p><b>【意見2】</b> 「施設の建設場所は、現吉良支所が適切」とのご意見をいただきましたが、3候補地にはそれぞれ一長一短がございます。 まず、現吉良支所ですが、市街化区域のため民間施設の建設に支障がないという長所がある一方で、津波浸水区域内ということと敷地が分割されているため大規模施設の建設に制限がかかってしまうという短所があります。 次に、コミュニティ公園ですが、駅に最も近いという長所の一方、都市公園用地のため、建ぺい率及び施設目的に制限がかかってしまう短所があります。 最後に、吉良中学校ですが、吉良町の間地点で幹線道路に近く、学校施設としての併用が可能という長所の一方で、調整区域のため民間施設の建設が難しいという短所があります。 以上のことを踏まえた上で、民間事業者がエリアマネジメントの視点から吉良地区にふさわしい新たな市民交流の場として企画提案してまいります。</p> <p style="text-align: right;">（次ページに続きます）</p>	資産経営課

整理番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課・連絡先
		<p>【意見3】</p> <p>津波避難対策として当施設を利用できると思います。吉田小学校から高台へは2kmから3kmです。さらに大島、高島、離島からは吉田小学校まで2.5kmあり、逃げ遅れた人々の避難場所となります。高台への避難経路には矢崎川があり、橋の老朽化も懸念され、液状化等により落下の可能性がります。橋の落下等避難経路の安全情報の確認や情報伝達の基地としても適切であると思います。なお、避難経路の確保のためには、矢崎川右岸の橋に繋がる一部を拡幅し、双方通行とすればよいと思います。</p>	<p>【意見3】</p> <p>「津波避難対策として当施設が利用できる」というご意見に対しましては、仮に津波浸水想定域内である吉良中学校や吉良支所に設置することとなった場合は、津波から緊急的に逃れる「津波一時待避所」としての利用が考えられます。また、津波浸水想定域外であるコミュニティ公園に設置することとなった場合は、「地震避難収容施設」として可能な限り指定してまいります。</p> <p>なお、矢崎川の堤防道路は、津波の河川遡上による危険性が高いため、避難経路としての道路拡幅や双方通行などの整備は考えておりません。</p>	危機管理課
2	資産経営課と他部署との連携について 〔横須賀〕	<p>【意見・質問】</p> <p>吉良町は歴史ある地域であり、かつ観光資源も豊富な地域であります。この度の再配置計画にあたり、歴史や観光等を担当する部署との連携はいかがでしょうか。公共施設再配置の担当課は資産経営課ですが、資産経営課と他部署との連携なくして新たなまちづくりはあり得ないと思います。市長の意見をお伺いします。</p>	<p>【意見・質問】</p> <p>西尾市では現在、5つの再配置プロジェクトをPFI事業として進めています。この発注書は、施設担当課による原案に基づきまして、資産経営課と協議して作成したものであります。また、施設担当課との連携を図るために、再配置プロジェクト関係課のチームミーティングも随時、開催しております。</p> <p>新たなまちづくりの出発点であります公共施設再配置は、次世代のために継続的に取り組む全庁的な政策でありますので、引き続き「全員野球」で推進してまいります。</p>	資産経営課
3	名鉄西尾・蒲郡線の存続について 〔横須賀〕	<p>【質問】</p> <p>名鉄西尾・蒲郡線の存続について、どのような対策をされているのですか。具体的にお聞かせください。廃線は絶対に困ります。</p>	<p>【質問】</p> <p>現在、名鉄西尾・蒲郡線活性化のためのアクションプランに基づき、沿線地域の関係団体で結成された「西尾・蒲郡線応援団」を核とし、さまざまな利用促進策を実施しております。具体的には、沿線でのハイキングやイベントの企画、利用促進大会の開催、団体・親子利用の運賃補助などがございます。</p> <p>なお、平成28年度以降の運行につきましては、本年3月開催の名鉄西尾・蒲郡線対策協議会において、名鉄が保有・運行する現行方式で維持存続を図るという方針が出されております。現在、本市と蒲郡市、名鉄の3者で、支援額と期間について協議中ではありますが、この路線は、言うまでもなく地域に欠かすことのできない交通機関でありますので、必ず存続させてまいります。</p>	地域支援協働課

整理番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課・連絡先
4	農業副都心構想（西尾市の活性化に期待！）について 〔津平〕	<p>【意見・質問】 農業副都心としての「目的」「目標」「姿」が見えません。次の4点を質問します。 1 「活力と魅力あふれる産業づくり」に貢献できる農業副都心構想の目玉は何ですか。 2 その「目標」「姿」にするための課題は何ですか。その方策は何ですか。 3 西尾市の「強み」と「弱み」は何ですか。 4 地域活性化指標は何ですか。</p> <p>産業の発展（西尾市経済の発展）を最大の目的とし、農業副都心構想の「6次産業化」を主軸とし、それが成功・拡大してからリピーターが全国から集まってくるような観光分野の再構築をすべきと思います。過去に失敗し、廃墟（閑古鳥が鳴く）になった数多くのテーマパークの栄枯盛衰事例を研究・分析をするのもよいではありませんか。 また、手広くして打ち上げても花火のような一過性のもになってしまふ危険性があります。実力を付けつつ、着実に発展していける計画と実践をしていくべきではないでしょうか。2次産業・3次産業分野でスピード感を持って実績を積み、全国区になるべきと思います（地産地消では発展は望めません）。「元気な西尾」の名前を全国レベルに、そしてグローバルにしてください。 西尾市民として「喜びと誇り」が持てることを期待します。</p>	<p>【意見・質問】 農業副都心構想は、合併により県内有数規模となった本市の農畜水産業の振興と、豊富となった観光資源を活かして交流人口を増加させ観光振興を図ることを目的としております。 本年3月にまとめた整備計画では、整備予定エリアは、憩の農園一帯で、憩の農園やバラ園の整備、農畜水産物直売所や特産品販売施設、飲食施設、観光案内施設などの整備を行う計画となっております。また、整備施設の配置では、憩の農園を「現在の場所で維持する案」「一部機能を移転する案」「全面的に移転する案」の3案を示しております。 整備スケジュールについては、3案でそれぞれ異なりますが、全面移転する案では事業が順調に進んだ場合、整備施設の一部を平成31年度には完成させたいとしております。</p> <p>それでは、ご質問をいただいた項目について回答させていただきます。 この構想の目的（目玉）については、先ほどご説明申し上げたとおり農畜水産業と観光の振興でございます。 次に、その目的を達成するための最大の課題は、事業主体の選定であります。現在、この構想の中心的施設と位置づけている「憩の農園」の移転を含めた今後の事業展開について、「憩の農園」の設置者でありますJA西三河と市の間で協議していますので、なるべく早い時期に事業主体が選定できるように努めます。選定できましたら、先ほど申し上げました目的が果たせるように、6次産業化施設等を整備推進してまいります。 この構想を進める上で、西尾市の「強み」としましては、「西尾の抹茶」「一色産うなぎ」「三河湾のあさり」「えびせんべい」「カーネーション」「植木」などの全国有数の特産物や、「憩の農園」「一色さかな広場」「吉良温泉」「愛知こどもの国」「佐久島」などの観光資源が豊富であることです。 一方、「弱み」としましては、地理的に名古屋から離れており、アクセス整備も不十分であることや、（都庁物産展でのアンケート結果などから）「西尾市」そのものの市名や、「西尾の抹茶」や「一色産うなぎ」といった特産品もあまり知られていないため、西尾市が誇る特産品の潜在力を活かさず、生産者（第1次産業）への波及効果が十分でないことが挙げられます。 この構想における地域活性化指標は、現在のところ定めていませんが、副都心エリアへの集客数、（その波及効果として）他の観光地への来訪者数、農畜水産業従事者数及び従事者の所得などがいずれも向上できるように、取り組みたいと考えております。 事業化にあたりましては、ご指摘のとおり、数多くのテーマパークが閉鎖に追い込まれている事実がありますことから、一過性にならないように、市内外から中高年、ファミリー、女性、若年層などあらゆる年齢層の方に何度も足を運んでいただけるような、常に「お客様の目線」に立った運営に心がけることが大切だと考えております。 農業副都心構想においては、1次産業である生産者の産直販売施設だけでなく、加工・販売を行う2次・3次産業分野においてもスピード感を持って事業を展開してまいります。また、現在、重要施策として位置付けております企業誘致や観光振興にも積極的に取り組み、「元気なまち・西尾」の実現のため努力してまいります。</p>	企業誘致課

整理 番号	事前意見・質問等（題名） 〔 〕内は意見等の提出があった小校区	（内容）	【回答】	担当課・連絡先
5	第5の施策である「安全とるおいのある環境づくり」について 〔荻原、横須賀〕	<p>【意見・要望1】 昨年、県が公表した三連動が予測される東海地震の被害予測結果では、西尾市は震度7の地震に見舞われ、最大津波高は4.4m、建物の全壊・半壊15,000棟、死者数1,800人と危機的な結果が示されています。県・西尾市とも防災・減災対策を最重点課題として取り組んでおられ、矢作古川の左岸も大島地区までは河川側（堤外地）の護岸工事が行われています。</p> <p>しかし、これより上流（特に左岸）は、堤防幅が狭い箇所や堤防高の低い地点が数多くあります。また、大富橋以北は、見た目にも広田川の中堤防より左岸の堤防の方が低い状況です。津波が遡上した場合、広田川の左岸から越流するのは明らかです。越流すれば堤防の決壊は免れません。この地域は2m以下の標高しかないのに、人的被害をはじめ大きな被害が発生するのは必至です。</p> <p>また、この地域の堤防道路は、震災による液状化現象による堤防高の沈下も懸念されています。そのためにも嵩上げ工事は必須と思われます。この地域は河口からも近く、住民から心配する声も常に上がっています。地震・津波による堤防の決壊を防ぐために、大島以北の矢作古川の左岸、それに続く広田川（左岸）の護岸改修・耐震工事と嵩上げ・拡幅工事を早急に実施していただきたい。また、今後の改修計画についての重点目標、見通しも教えてください。</p> <p>【要望2】 防災対策関連ですが、近年異常気象が多くなっています。横須賀地区の西側には矢作古川、広田川が流れていますが、横須賀橋上下流の河川低水敷に多くの大木が生えています。これが豪雨時の阻害にならないか心配です。問題があれば伐採をお願いします。また、堤防上の立木も検討してください。</p>	<p>【意見・要望1】 矢作古川・広田川を管理する愛知県に改修計画について確認したところ、次のとおりの回答がありました。</p> <p>矢作古川（左岸）につきましては、大島以北も含めて昨年度に堤防の耐震点検を実施しました。その結果をもとに精査・検討を行い、対策が必要となった箇所について堤防の耐震対策を実施してまいります。</p> <p>広田川（左岸）につきましては、堤防高が不足している箇所について堤防の改修（嵩上げ等）を行っていきたいと考えております。</p> <p>また、今後の改修計画の重点目標・見通しとしましては、第3次あいち地震対策アクションプランの対策項目に掲げられている堤防等の耐震化・粘り強い構造への強化等を重点的に取り組む事項に位置付け、目標を達成するべく対策を推進してまいります。</p> <p>【要望2】 こちらにつきましても、管理者であります愛知県に確認したところ、次のとおりの回答がありました。</p> <p>河川の低水敷の立木は治水上の支障となりますので、伐採する必要があります。予算の範囲内で順次支障木を伐採してまいります。</p> <p>また、堤防上の立木につきましても流下能力には問題ありませんが、河川管理上支障があれば伐採してまいります。</p>	河川港湾課